



読者の声

読者の皆様から寄せられた
「水とともに 2022・冬号」への
ご意見・ご感想を紹介します

世代を担う若手職員と経営の意見交換から、プロの誇りを再認識することを基に現状課題を明確にし、将来に向けての展望と求められる役割と、技術継承のあり方を考えることは、業界を問わず共通で興味深かった。
(特集 60年記念特集記事) (60代・男性)

「輪中」といえば、木曽川等の河口の地域をまず思い浮かべますが、今回は「利根川と霞ヶ浦に囲まれた輪中地域」ということで、読んで見て納得し、水害も多発していることを再確認しました。水位変化のグラフや輪中のイメージ図は、大変興味を惹かれました。

(トピックス 利根川と霞ヶ浦に囲まれた輪中地帯を守る) (50代・男性)

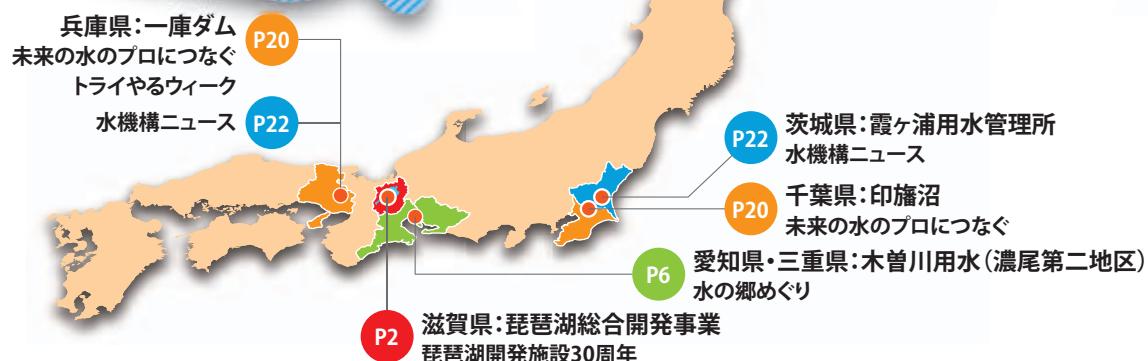
インターンシップを積極的に受け入れる姿勢を高く評価する。現在のダムの姿はこれまでの英知の結集であるのだから、その状況を若者に伝え、興味を持つてもらい、勉強に励んでもらい、もしそのうえでさらに興味があれば、将来の職業候補の一つとして貴機構を選んでもらえたなら幸いだと思う。

(シリーズ 未来の水のプロにつなぐ) (40代・男性)

2022冬らしい表紙の写真も素敵でしたし、トップの新年の挨拶も印象的で記念すべき号でした。また、新入社員とのトークなども風通しの良さを感じました。

(40代・女性)

主な 本号のご紹介施設



暖かい気温となり、心地よい季節となっていました。今年度最後の発行となり、大変さみしい気持ちでいっぱいです。去年、新たに編集担当になり早一年が経ちましたが、多くの皆様に支えられながら無事発刊することができました。引き続き水資源機構をよろしくお願いします。

今号は、琵琶湖開発施設30周年から始まり、水の郷めぐり（木曽川用水）と盛り沢山なので、是非ご覧下さい。

みずしげんきこう
編集・発行 独立行政法人 水資源機構

〒330-6008 さいたま市中央区新都心11番地2
総務部広報課 TEL.048-600-6513（直通）FAX.048-600-6510

安全で良質な水を安定して
安くお届けすること、
それが水資源機構の仕事です

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



ホームページ

<https://www.water.go.jp>



Twitter

https://twitter.com/jwa_pr



Facebook

<https://www.facebook.com/jwaPR>

ISSN 2187-8048